

76 期リレーエッセイ



東京弁護士会での1年を終えて

会員 小山田 圭

1 はじめに

2023年12月に、東京弁護士会への入会とともに開始した弁護士生活が、ちょうど1年を迎えた頃に筆を執っている。

入会の経緯は単純明快、父親が当会の会員だからである。何年かのサラリーマン生活を経て、気の迷いから司法試験受験を決め、なんとか弁護士になることができたのち、父の事務所に入所し、所属会も父にあわせた。

2 弁護士会に関連した活動

弁護士は私と父の2名のみという環境にあって、外部の弁護士と関わる機会を作ることは必須だと考えていたため、まずは父が入会している会派の年度末総会に飛び込んでみた。相応に緊張し、まったくうまく振る舞えなかったのがあったが、温かく受け入れていただけ、執行部事務局幹事の役割を拝命することになり、楽しく活動できた。特に、会派内の各部対抗ソフトボール大会で優勝したことは、弁護士生活1年目のハイライトの一つであった。

委員会活動においては、まず若手会員総合支援センターに、研修員として配属していただいた。弁護士を取り巻く環境の変化が目まぐるしい昨今において、どのようなサポートが弁護士会から若手会員に対して行われているのか、興味があつての参加であったところ、部会にも所属する中で、今後の業務展開に関する有益な情報を得ることができた。

同じ動機から、『若手弁護士が語る会』というイベントにも参加した。理事者たる会長・副会長と近い距離で話ができるという、触れ込み通りの内容であった。イベント後の懇親会で、同様の素敵な催しには継続的

に参加したい、といった旨を述べたところ、参加者に留まるだけでは勿体ないということで、同イベントを主催していた、新進会員活動委員会の委員を務めさせていただき運びとなった。5年目までの会員で構成される委員会ということで、また新たに若手会員との交流の機会を得ることができた。

さらにその後、広報委員会ともご縁があり、そちらについても委員就任となったことから、本稿の執筆に至っている。弁護士会がいま正にどのような活動を行っているか、幅広く知ることのできる、大変有意義な機会となっている。当会のPR動画を作成するというプロジェクトが進んでいるところ、本稿が世に出る頃には、その動画も世間に披露されているのではないだろうか。

3 これからに向けて

各種の活動を通じて、人脈や知識を得られたことは勿論、お互い助け合い、支え合いながら、弁護士という職業を盛り上げていこうと活動している先輩たちの側にいると、自分も何かの役に立ちたいし、同じように考える同期・後輩も増えていくと尚良いのではないかと考えるようにもなった。自分なりに、ある程度視野も広げられたのではないだろうか。

タイミングとして、ちょうど入会したての77期の新入会員の方がこの記事を目にする機会も多いかと思われるところ、今回は弁護士会関連の活動についてのみ触れたが、それに限らず、ぜひ早い段階から勤務先の業務以外の様々な活動に参加していくことをおすすめしたい。

2年目以降も、引き続き各種活動に参加しながら、より周囲に貢献できるようになっていきたい。くわえて、多くの新たな良き出会いがあることを期待している。